

壁紙施工要領書
- ゆたか・珪藻土漉込紙 -

【該当品番】(2013-17WD)
LY-14470~14478

■特長

左官材料のひとつである珪藻土を紙に漉き込んだ自然素材の壁紙です。

■下地調整

- 施工後の、下地の不陸の目立ちを避けるために、下地はできるだけ平滑に仕上げるようにしてください。
- 下地と同色の樹脂入りのパテを使用してください。強度の弱いパテはハガレの原因になります。
- 湿式工法による下地（コンクリート、モルタルなど）や、パテ・シーラーを施した場所は十分に乾燥（水分11%以下）していることを確認してください。未乾燥状態での施工は壁紙の変色、かびの発生を招くことがあります。
- 接着性の悪い下地（ケイカル板、粉吹き下地、ペンキ下地、化粧板など）には必ずシーラーを塗布してください。下地を補強し壁紙のハガレ、目開きを防ぎます。

■接着剤

- 接着剤は、原液タイプをお勧めします。希釈タイプ使用の場合、希釈率は濃い目のもの（糊：水=10：6～7程度）を多めに塗布してください。また、ボンド（エチレン酢ビ系）を10～20%程度を目安に混合してください。（水分の多い薄い糊の場合、壁紙が糊自体を吸い込んでしまい、接着力が低下します。水分を余分に吸い込むことで伸び切るまでの時間が長くなったり、ふくれの原因にもなります。）

■養生・オープンタイム

- ・接着剤塗布後は、うませ時間を5～10分程度、施工可能期間60分以内を目安に作業を進めてください。
- ・接着剤塗布後はタタミジワを防ぐためにも、大きくたたみ上積みは避けてください。また、材料を強く折らないようご配慮ください。
- ・養生の際、両端部の乾燥や、乾きによるアイハギを防ぐため、養生用のボックスやシートなどの使用をおすすめします。

■張り付け、ジョイント

- ・ジョイントを突き付け施工にて行なう場合は、きつめに（かぶせてやや戻し気味に）納めてください。
- ・重ね裁ち（ダブルカット）施工にて行なう場合は、下地まで切り込まないようにしてください。目開きの原因となります。（壁紙と下地の間に下敷きを入れる、和紙テープを張り込む、といった注意が重ね裁ちの場合は必要です。）
- ・商品が硬めですので、カッターは薄刃の物を使用し、こまめに替えて常に鋭利な状態で使用し、まっすぐに入れてください。

■なで付け

- ・なで付けの際は、柔らかい刷毛を使い丁寧に行なってください。ローラーはウレタン製のものを使用してください。
- ・力をいれて横方向になで付けを行なうと壁紙が引っ張られ、乾燥後に目開きが発生する場合がありますのでご注意ください。
- ・吸水性のよくない下地（シーラー塗布面、化粧板、等）では、あと伸びによるフクレが発生することがあります。なで残しのないように繰り返し何度もエア抜きをおこなってください。

■その他

- ・壁紙表面に水や接着剤が付着すると変色の原因にもなります。付着した場合は直ちに拭き取るようにしてください。

■施工後

施工後は接着が安定するまで自然乾燥させてください。特に、冷暖房などによる急激な室温の変化は避けてください。目開き、はがれの原因になります。

■汚れについて

- 表面に接着剤等が付着した場合は、きれいな水を使用し、固く絞った布等で拭き取ってください。変色、シミ等の原因になります。
- ・手垢等については拭き取ることが困難です。付かないようご配慮ください。

【壁紙施工要領書 -珪藻土漉込紙-】